平成 27 年度　発達障害理解推進拠点事業
成果報告書（概要版）

実施機関名（　　京都市教育委員会　　）

1. テーマ

京都市では，Ａ：『ユニバーサルデザイン化の推進』をテーマにした教員の資質向上等と，Ｂ：『総合育成支援教育　マスターコース』を開講し，教員の資質向上等を図り，発達障害理解推進拠点事業を進めた。

2. 問題意識・提案背景

文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的視点を必要とする児童生徒に関する調査」によると，公立小・中学校の通常学級において，6.5%の児童生徒が，学習面又は行動面において著しい困難を示すという結果が発表されており，これらの児童生徒以外にも，何らかの困難を示していると教員が捉えている児童生徒がいることが示唆されている。

京都市においても，同様の傾向がみられ，ＬＤ等支援の必要な児童生徒が年々増加している状況の下，Ａ:『ＬＤ等支援の必要な子どもを含むすべての子どもの学力向上』と，Ｂ:『特別支援教育の分野で地域の中核となる教員の養成』の 2 つをテーマとして「発達障害理解推進拠点事業」で 26 年度に引き続き，重点的に取り組むこととした。

○　拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
京都市教育委員会	Ａ：京都市立樫原小学校 （きょうとしりつかたぎはらしょうがっこう）
京都市教育委員会	Ａ：京都市立松陽小学校 （きょうとしりつしょうようしょうがっこう）
京都市教育委員会	Ａ：京都市立醍醐西小学校 （きょうとしりつだいごにししょうがっこう）
京都市教育委員会	Ｂ：京都市立山ノ内小学校 （きょうとしりつやまのうちしょうがっこう）

○　理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
京都市教育委員会	Ａ：京都市立大枝小学校 （きょうとしりつおおえしょうがっこう）
京都市教育委員会	Ａ：京都市立嵐山東小学校 （きょうとしりつあらしやまひがししょうがっこう）

京都市教育委員会	Ａ：京都市立石田小学校 （きょうとしりついしだしょうがっこう）
京都市教育委員会	Ｂ：京都市立安井小学校 （きょうとしりつやすいしょうがっこう）

4. 拠点校における取組概要

京都市では，昨年度に引き続き，Ａ：『ユニバーサルデザイン化の推進』をテーマにした教員の資質向上等と，Ｂ：『総合育成支援教育　マスターコース』を開講し，教員の資質向上等を図り，発達障害理解推進拠点事業を進めた。

Ａ：『ユニバーサルデザイン化の推進』に係る取組では，「みんなの特別支援教育　授業のユニバーサルデザイン化を目指して」をテーマした校内研修や，道徳授業についてのユニバーサルデザインについて，基礎的な校内研修を実施した。また，通級指導担当教員や総育主任などを対象とした専門的な校内研修では，年度当初に「配慮を要する児童についての共通理解」をテーマに，年度末に「配慮を要する児童の変容」をテーマに研修を実施し，理解を深めたり，年度当初に「個別の指導計画の評価の方法」をテーマに，夏季休業期間中に「ケース会議の進め方等について」をテーマに研修を実施し，教員の資質向上を図った。また，学校教育活動全体を通じた児童生徒への障害者理解を図るための取組としては，他校の学校長等を講師として招き，情緒障害児の特性や行動傾向について正しく理解し，必要かつ大切な配慮についての研修啓発や，総合育成支援をテーマにした授業実践を全学年で実施するなど，児童への障害者理解を図った。

Ｂ：『総合育成支援教育　マスターコース』に係る取組では，特別支援教育の中核を担えるような教員を養成するため「「読む・書く」の指導」，「ソーシャルスキルの指導」，「行動面の指導」，「心理検査法」及び「保護者理解」のテーマで計 27 時間の研修を行った。拠点校では，「Ａ」で実施しているユニバーサルデザインをテーマにした研修を実施した。また，児童への障害者理解を図るための取組に関しては，『特別支援学級児童との交流を通して障害のある児童への接し方を学ぶ。』をテーマに全校で啓発を実施し，児童への障害者理解を図った。

5. 主な成果

京都市では，Ａ：『ユニバーサルデザイン化の推進』をテーマにした教員の資質向上等と，Ｂ：『総合育成支援教育　マスターコース』を開講し，教員の資質向上等を図り，発達障害理解推進拠点事業を進めた。

Ａ：『ユニバーサルデザイン化の推進』に係る主な成果は，昨年度から引き続き，拠点校 3 校の教員が学校一丸となってユニバーサルデザイン化の方向を向くことができ，子供の行動にも，学校環境面ではあるが，ユニバーサルデザインの考え方が実際に反映されてきたことがあげられる。

基礎的な校内研修についても，拠点校 3 校において，各教員が積極的に参

加し，100%，90%など非常に高い教員受講率となる研修を実施することができた。これはユニバーサルデザイン化をテーマとした研修の意義や必要性が全ての教員に共有された結果ということができる。

また，8 月にはユニバーサルデザインシンポジウムを開催し，京都市の教員だけでなく他都市からの参加者も含め，500 名以上もの方々に参加いただき，京都市の学びのユニバーサルデザインの取組について，啓発，発信することができた。

Ｂ：『総合育成支援教育　マスターコース』に係る主な成果は，発達障害に関する支援の中核となる高度な専門性を有する人材を養成するために，管理職の選考のもと，最終的には 56 人の教員が計 50 時間以上の専門的な研修（テストを含む）を連続して受講し，修了することができた。今後は修了者達が自校だけでなく，地域内においても中心となって総合育成支援教育を推進する。

基礎的な校内研修については，「Ａ」で実施していた「ユニバーサルデザイン」をテーマにした研修を校内で実施し，88%の教員受講率であった。「ユニバーサルデザイン」拠点校の研究の成果と課題の発表を聞き，校内でのＬＤ等支援の必要な子供を含むすべての子供たちがしっかりと学習に取り組める実践にいかしていく。児童への障害者理解を図るための取組についての児童の感想では，「特別支援学級（育成学級）のお友達と一緒に遊びたい。」などが寄せられ，一定の理解が図れた。

6. 今後の課題と対応

Ａ：『ユニバーサルデザイン化の推進』に係る今後の課題：昨年度に引き続き，平成 27 年度においても拠点校 3 校が理解推進地域内の教員に，ユニバーサルデザインの取組等を広めていくことができた。昨年の課題であった理解推進地域という限定的な地域での情報発信となっていた点について，既述のとおり，シンポジウムを開催することにより，市全域のみならず，広く全国まで，ユニバーサルデザイン化の取組を発信することができた。

しかし，全市立学校・園において，どの学校・園にも支援の必要な子供がいるという理解のもと，各校において基礎的な内容を着実に広げること，より実践的な取組を進めていくためには，本シンポジウムがイベント的な意味合いになることなく，今回の取組を機に，より一層，支援の必要な子供に対する支援について研究を進める必要がある。

Ｂ：『総合育成支援教育　マスターコース』に係る今後の課題：マスターコース修了者の活用について，単に個人の総合育成支援教育に関する知識等を上げることだけが目的ではなく，修了者を中心とし，自校はもちろん，地域内での総合育成支援教育を推進するためのプロフェッショナルとして，活躍してもらえるように，次年度以降においても，教育委員会が主体的にそうした体制作りを工夫する必要である。

7. 問い合わせ先

組織名：京都市教育委員会

(1) 担当部署　　総合育成支援課

(2) 所在地　　京都市下京区河原町松原上ル二丁目冨永町 344 番地

(3) 電話番号　　075－352－2285

(4) FAX 番号　　075－352－2305

(5) メールアドレス　　y-ikusei@edu.city.kyoto.jp